

特集 1 生徒・保護者 学校評価アンケートの報告

回答期間 令和5年11/24（金）～12/4（月）

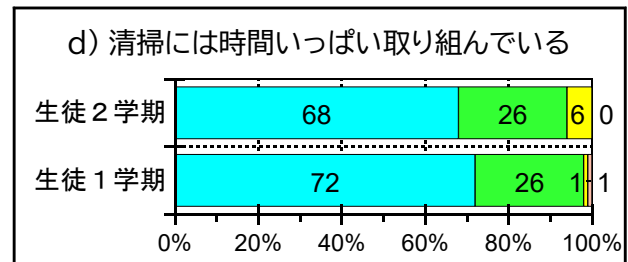
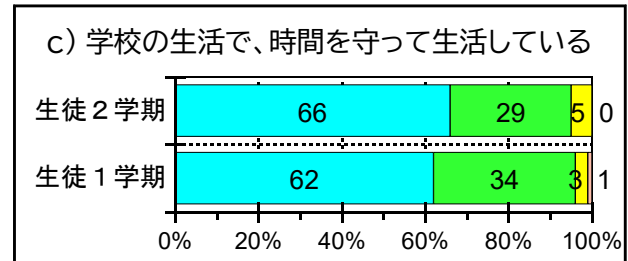
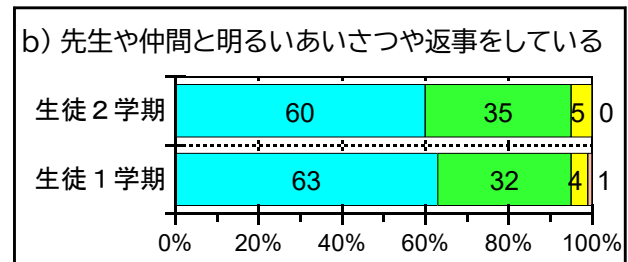
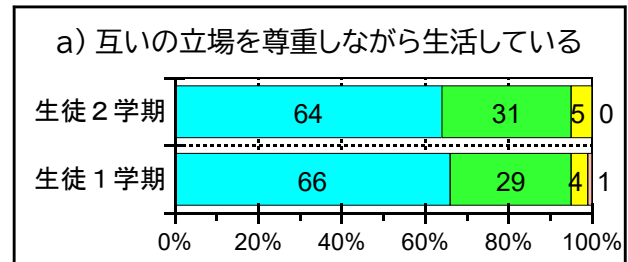
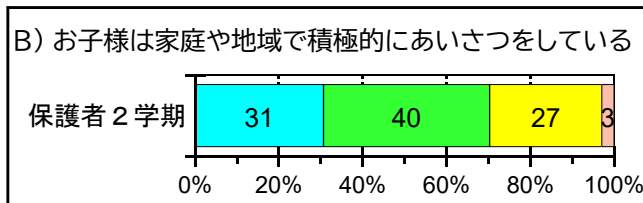
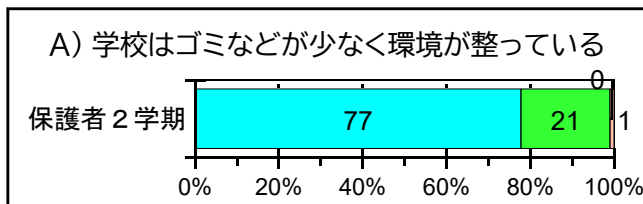
■ そう思う
 ■ だいたいそう思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ そう思わない

1 気持ちのよい学校生活を送る青木中生

α～dの設問は、学校生活や社会での基本と言えるものかもしれません。それぞれについて、1学期と2学期で若干の変動はありますが、高い評価となっています。「お互いの立場を尊重しながら」「明るいあいさつを交わし」「時間を守って」「清掃にも時間いっぱい取り組んで」いる様子がかがえます。

私たち職員からみても、お互いに助け合ったり、優しい言葉をかけ合っている場面をよく見かけます。「おはようございます」「ありがとうございます」といったあいさつがとても爽やかです。チャイムと同時に授業が開始され、チャイムと同時に終わる、そんな姿が当たり前のように日々展開されています。

清掃などの環境については、グラフAのように、保護者の皆様からも高い評価を得ております。



生徒たちは「先生や仲間と明るいあいさつや返事をしている」という回答が多い（グラフb）のですが、保護者の皆様の「お子様は家庭や地域で積極的にあいさつしている」という評価があまり高くない（グラフB）ことが少し気がかかります。

思春期を迎え、他者に心を開くことが上手にできないことが多くなる年頃ですので、家庭でのあいさつや返事の評価が高くないことはわかるような気がします。

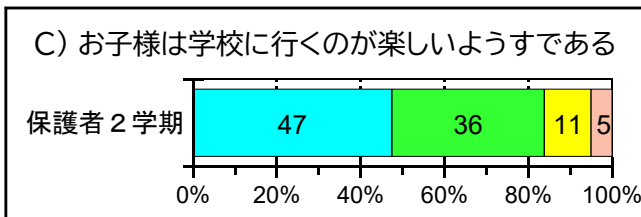
地域の方へのあいさつがあまりできていないとしたら少し残念なことです。学校の内外で心を開いて元気よくあいさつができる青木中生を目指していきたいと思っております。ぜひ、ご家庭でもご支援のほどよろしくお願いいたします。

2 青木中学校をより安心・安全な場所に

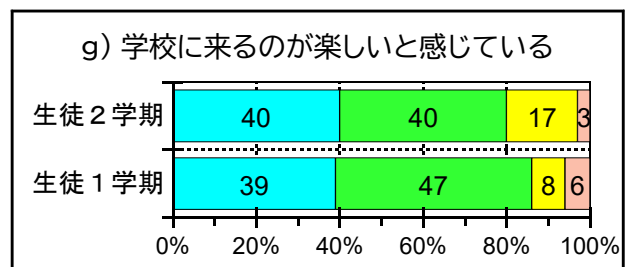
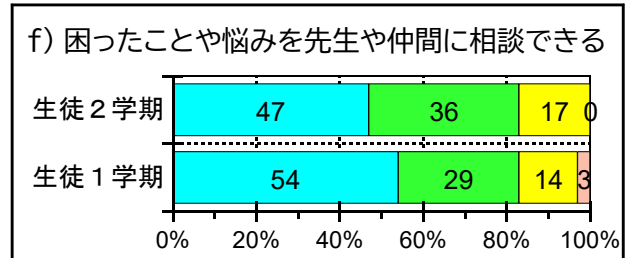
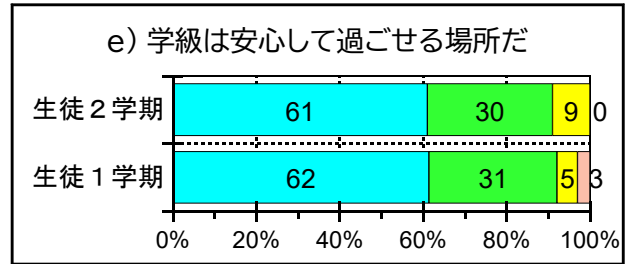
集団生活で、もっとも大切なことは、「安心感」だと思っています。学校は、誰の目を気にすることもなく、自分らしく学び、自分らしく生活できる場所であってほしいと願い、教育活動に当たって参りました。

「学級で安心して過ごせる」生徒が9割（グラフ e）、「困ったことや悩みを相談できる」生徒はおよそ8割（グラフ f）、「学校が楽しい」と感じている生徒もおよそ8割（グラフ g）という結果になっています。

保護者の皆様も、8割以上の方が、「学校に行くのが楽しいようす」とお答えになっています。（グラフ C）



しかし、これらの設問は他の設問以上に、残りの1～2割の生徒に目を向けなければならないと思っております。全員が安心して過ごせる学校、学級を目指し、今後も努力して参りたいと思います。日々の授業、道徳、人権教育では集団の中でのよりよい生き方や仲間とのかかわり方を磨き、5月と10月の生徒相談や懇談会、日常的な会話では、生徒一人一人が抱える悩みや不安に寄り添い、いっそう安心して過ごせる青木中学校を目指して参りたいと思います。



3 豊かに学びを深める姿を目指して

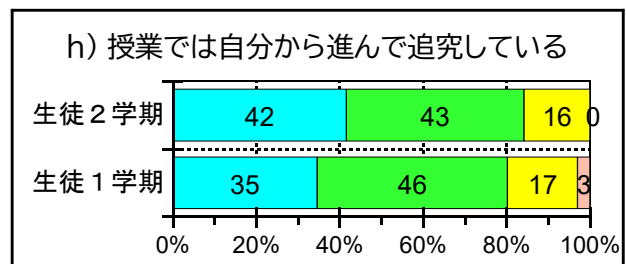


1学期の生徒授業評価アンケート結果から、夏休み中に職員研修を実施しました。『いっそう生徒が輝く授業をつくりたい』という願いをもとに、左のようなポスターをつくり、2学期のはじめに生徒たちに示しました。

「先生たちは、教科の魅力を味わってほしいと願い、生徒が輝く授業をつくりたいと思っています。生徒の皆さんもぜひ、受け身ではなく、自分から進んで学ぼうという意識を高めてください」と伝えました。

グラフ h、i を見てください。いずれも1学期よりもはるかに向上しました。青木中の生徒のすばらしさが如実に表れていると思います。

「先生、今日は何を勉強するの?」と目を輝かせながら聞いてくる生徒もいました。制作や創作、教え合い活動や実験、調べ学習などグループでの活動も非常に活気があり、学びがより豊かに進化しているのではないかと感じました。

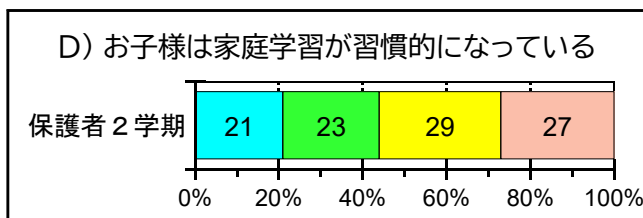


また、ICTの活用についても職員研修を重ねてきましたが、ChromeBookを巧みに操作しながら主体的にまとめたり、調べたりする姿も増えてきたと思います。今後も生徒たちがいっそう主体的に取り組みやすい環境を目指して参りたいと思います。

課題は、「毎日学習したことを復習している」「わからないことをそのままにせず、解決しようとしている」の評価が低い(グラフj、k)ことです。

前述の通り、授業に積極的に取り組む意識は高まっていますが、学びそのものが授業任せになってしまい、本当の意味では学びが自分のものになっていないことを示唆していると思います。

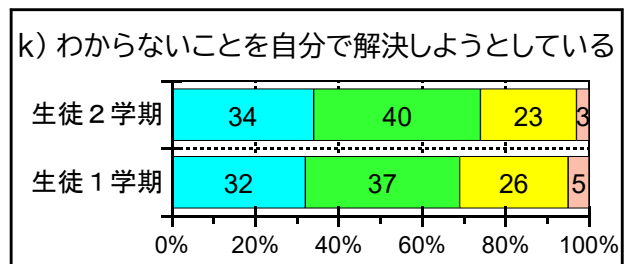
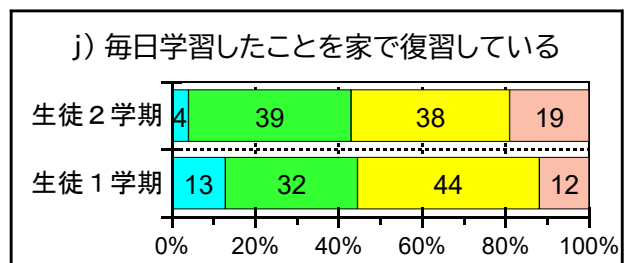
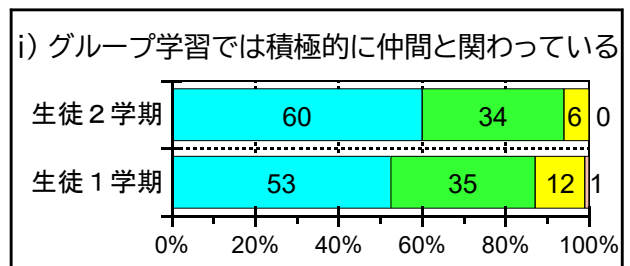
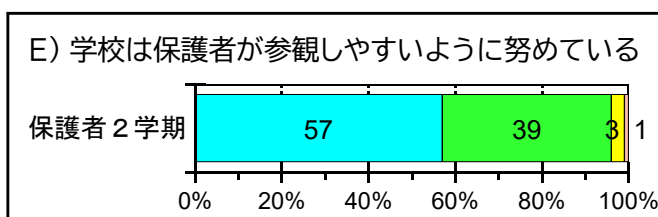
保護者の皆様の回答も、「子どもの家庭学習が習慣的になっている」と感じている方は4割あまり(グラフD)にとどまっています。



そこで、3学期のはじめに「学びの集会」を開催しました。今日の授業と次回の授業の間は1~7日間空いてしまいますので、授業だけだと学びが断片的になってしまいます。だから、その授業と授業をくっつける学習が大切なんだという話をしました。それが「セルフスタディ」です。セルフで(自分で、自分で考えて、自分の方法で)勉強(スタディ)するということです。家庭で、とは限らないので「家庭学習」という呼び方はやめました。セルフスタディは主に「予習」「復習」「自己解決」「定着」の4本柱です。しかし、すべてを生徒任せにするのではなく、3学期は、教科担任が「〇〇ページを読んできてね」や「プリント配るからやってみて」などセルフスタディの材料となるものを提供し、声かけをしていくつもりです。やるかやらないかは本人次第ですが、すでにセルフスタディを始めた生徒が多数おり、それが習慣化されていくといいなと思っています。

ぜひご家庭でも、セルフスタディの大切さについて、保護者の皆様の経験を重ねながら対話をしていただけると幸いです。

4 家庭と学校が両輪となって、地域という名の大地で育てる



↓「学びの集会」資料より

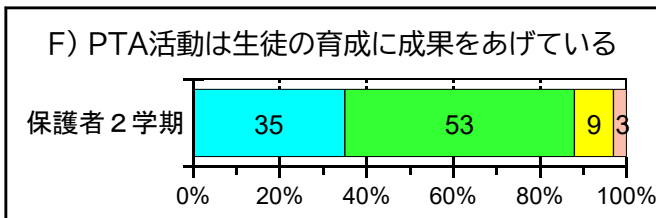
セルフスタディとは

- 授業内容をあらかじめ知っておく (予習)
- 何を学習したのか振り返る、まとめる (復習)
- わからないところを聞いたり、調べたりする (自己解決)
- 問題を解いて身につける (定着)

の4本柱です。

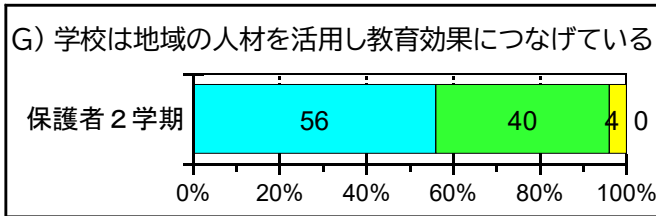
新型コロナウイルス感染症の猛威もだいぶ収まりを見せ、社会も学校も通常の活動がもどってきた今年度であったと思います。

そのような中で、グラフEのように高評価をいただいたことはうれしい限りです。



グラフFについて、PTAの活動も、お仕事等でご多用の中ではありますが、多大なるご支援をいただき、ほぼ計画通りに遂行していただきました。

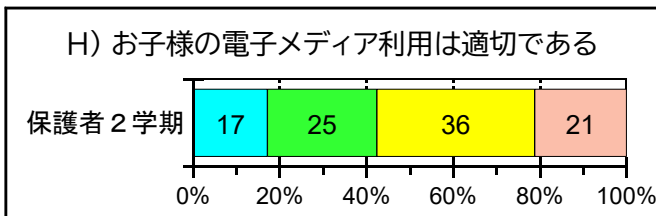
心より御礼申し上げます。今後も子どもを見守り支える、同じ大人の立場で、家庭と学校が協力し合っていくことは、生徒の健全なる成長に不可欠なことだと思います。引き続きご支援のほどよろしく申し上げます。



また、グラフGについて、アイリスセミナーも4年ぶりに復活するなど、義民太鼓や防災講座も含め、地域の方のお力を借りながら教育活動が展開できることは青木村だからこそと思います。

今後も、青木村の宝とも言える豊かな人材を活かしながら、いっそう充実したものにしていきたいと思っています。

5 その他

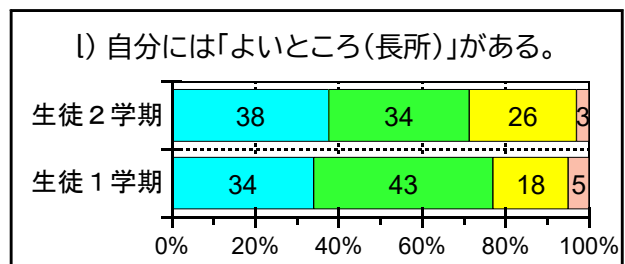


電子メディアの利用については、毎年の課題だと思います。(グラフH)

今年度の子育てフォーラムで貴重な講演をいただきました。詳細ははつらつネットワーク通信第219号に掲載されましたので、ぜひ参考にしてください。

また、青木村で重点を置いてきた『自尊感情』に関わって、「自分にはよいところがある」と感じている生徒がおよそ7割(グラフI)という結果でした。

「やればできる」という成功体験や「こんなことができるようになった」という成長実感、「自分にもこんなよさがあったんだ」という自己発見ができる学習や場面を設定し、積み重ねて、少しずつ「自分は自分でいいんだ」という自己肯定感や自尊感情が育つよう努めて参りたいと思います。



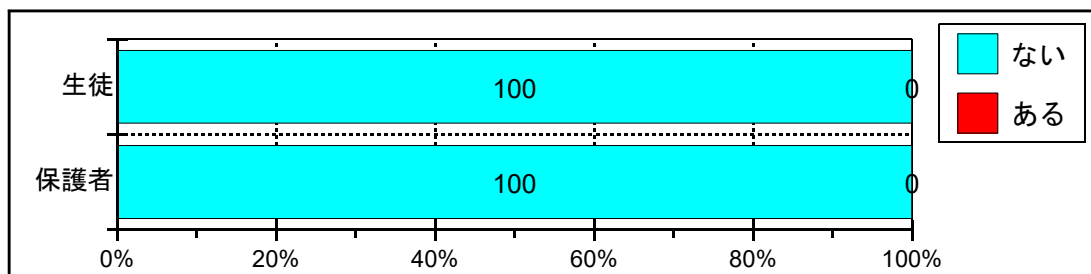
6 いただいたご意見について

- ・「宿題がないと学習習慣がつかず難しい」というご意見がありました。私たちも何がベストかを考え、議論してきました。そこで、3で申し上げたとおり、セルフスタディの大切さについて説明し、3学期は、セルフスタディの材料を教師が提供し、声をかけていきたいと思っています。やるかやらないかは本人次第(セルフ)ということになります。またご意見いただければと思います。
- ・「少人数でもできる部活があるといい」というご意見がありました。社会全体的に、部活動の地域移行が進められており、徐々に学校から切り離される方向にあります。また、全学年が単級となり職員数が減少しています。部を新設ということは難しいかもしれません。今後のあり方については、顧問、外部指導者、教育委員会で組織する部活動運営委員会で継続的に検討していきます。
- ・「インフルやコロナが流行っているという情報がほしい」というご意見がありました。生徒にはできるだけ速やかに注意喚起していきたいと思っています。また、登校については、朝の体調が悪ければ無理をせずお休みするようお願いします。
- ・授業の内容や授業の進度の不安に関わるご意見もいただきました。私たち自身の自己研鑽をいっそう深めるとともに、計画的な授業展開に努め、生徒も保護者の皆様も安心できる学習環境をいっそう整えて参りたいと思います。
- ・その他、温かいお言葉をたくさんいただきました。いただいたすべてのご意見を謙虚に受け止めるとともに明日への活力とし、今後を活かして参ります。誠にありがとうございました。

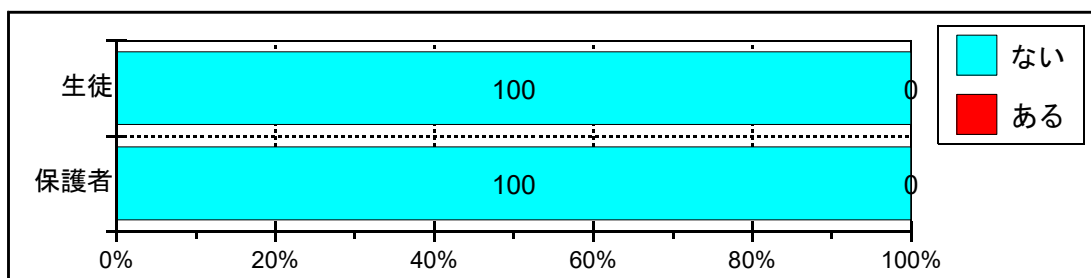
特集 2 体罰に関わるアンケートの報告

回答期間 令和5年12/18（月）～令和6年1/10（水）

質問 1 今年度の4月から現在までに、学校の先生や部活動の外部コーチなどから、手でなぐる、棒などでなぐる、蹴る、突きとばすなどの暴力や、長い時間正座させられるようなことや暴言を吐かれるなどをされたことがありますか。



質問 2 今年度の4月から現在まで、学校において、自分以外の方が、先生や部活動の外部コーチなどから、手でなぐる、棒でなぐる、蹴る、突きとばすなどのことをされたり、長い時間の正座などをさせられたり、暴言を吐かれるのを見たり聞いたりしたことがありますか



まとめ

本校では、体罰（言動などの心理的体罰を含む）を「しない」「許さない」「見逃さない」を合い言葉に、毎回、職員会の折には非違行為防止研修を実施してきました。

今回、生徒の回答、保護者の皆様からの回答ともに、体罰と認められるような回答はありませんでした。

この事実を当たり前のこととして、今後も油断することなく研修を積み重ねていきたいと思えます。2ページに掲載した、「安心・安全」にも関わる内容であり、学校においてはもっとも大切にしなければならないことだと思っています。

互いの人権を尊重し合う風土は、私たち教師のふるまいからつくられることを肝に銘じながら、今後も生徒の指導・支援に当たって参りたいと思えます。

もし、お子様のようなすで心配な点や、中学校職員員の対応で気になる点などございましたら、お気軽に中学校までご連絡ください。

今後ともよろしく願いいたします。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

青木村立青木中学校
相談窓口 大久保礼子（教頭）